笠間市議会清掃施設整備等調査特別委員会記録（第17回）

令和6年5月13日 午前10時00分開会

出席委員

委員長	西山	猛	君
副委員長	益子	康子	君
委員	長谷川	愛子	君
〃	酒井	正輝	君
〃	河原井	信之	君
〃	鈴木	宏治	君
〃	川村	和夫	君
〃	坂本	奈央子	君
〃	安見	貴志	君
〃	内桶	克之	君
〃	田村	幸子	君
〃	林田	美代子	君
〃	田村	泰之	君
〃	村上	寿之	君
〃	石井	栄	君
〃	畑岡	洋二	君
〃	飯田	正憲	君
〃	石松	俊雄	君
〃	大貫	千尋	君
〃	小藪江	一三	君
〃	石崎	勝三	君
〃	大関	久義	君

欠席委員

なし

出席議会事務局職員

議会事務局長	山田	正巳
議会事務局次長	堀内	恵美子
次長補佐	鶴田	貴子

係 長 神 長 利 久
係 長 上 馬 健 介

議 事 日 程

令和6年5月13日（月曜日）

午前10時00分開会

1 開会

2 案件

(1) 中間報告の提出結果について

午前10時00分開会

○西山委員長 委員みなさまには、足元の悪い中、第17回清掃施設整備等調査特別委員会に御出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

早速会議に入りますので、よろしくお願いいたします。

○西山委員長 本日の出席委員は全員であります。

定足数に達しておりますので、ただいまから会議を開きます。

本日の会議では、執行部への出席を求めておりませんので、執行部の出席はありません。

議会事務局より局長、次長、次長補佐、係長が出席しております。

本日の会議の記録は、次長補佐にお願いいたします。

傍聴の申し出は、今のところありません。

○西山委員長 本日の案件に入ります。

中間報告の提出の結果についてであります。去る4月19日に開催いたしました第16回当委員会において、15回にわたり調査を行ってきた事項についての中間報告の内容をご協議いただきました。それを受けて4月22日の午後2時30分、市長室において、私と益子副委員長で、市長と面会をし、中間報告書を提出してきましたことを委員のみなさまにご報告いたします。

それでは、中間報告の提出の結果について、益子副委員長よりご報告をいたしますので、よろしくお願いいたします。

○益子副委員長 それでは、ご報告させていただきます。

4月22日午後2時30分に西山委員長と副委員長である私で、市長室において、市長と面会し、当委員会の中間報告書を提出してまいりました。

中間報告書の内容であります。4月19日の第16回委員会で、委員のみなさまにご協議いただいた内容のように、委員会に中で、参考として議長から提出された高効率ボイラー

を採用した場合の概算費用を赤字で記入した資料を、別紙として添付し、当委員会からの中間報告書といたしました。

中間報告書の提出の際、市長からは、執行部が説明している概算費用と参考資料における赤字表記の費用について、データの根拠について、疑問視しながらも算出にはいろいろな方法があるためお互いの数値に差異があるのではと見解を示しておりました。

また、現在執行部が検討を進めているバイオガス発電施設併設について、人口減少やごみの分別により処理するごみ量が減少していくことを鑑み、バイオガス発電施設の規模を現在の計画より縮小することは考えられないかとの問いかけをしたところ、それについてはあり得るとの見解をいただいております。

以上、中間報告書提出の結果をご報告させていただきました。以上です。

○西山委員長 ただいま報告がありました。

この件につきまして、ご意見等をいただきたいと思います。

ポイントにつきましては、提出した参考資料の赤字の部分についての根拠はどうかという市長側の疑問、これが一つ。

もう一つは、副委員長から、直々に市長あてにバイオガス施設そのものの縮小は考えられるかということについての、市長は、検討の余地ありとの回答をいただきました。

これが中間報告の提出のときのやりとりであります。

そのうえで、みなさんのご意見をいただきたいと思います。

石松委員。

○石松俊雄委員 バイオガスの施設の縮小とは、どういうふうに聞いたのか。わかりません。どういうことなのですか。

○西山委員長 どうします。副委員長答えますか。

○益子副委員長 面会時間が少なかったもので、具体的に細かいことは聞いておりません。ただ施設の縮小は考えられるのかどうか大雑把に聞いただけなので、この辺はご理解いただきたいと思います。

以上です。

○西山委員長 石松委員。

○石松俊雄委員 別に細かいことを聞きたいわけではなくて、バイオガスの縮小とはどういう意味なんですか。よくわからない。要するに計画している規模よりも縮小ができないかということを知りたいということなのですから、聞いた根拠というものが、よくわからないのですけれども。根拠。

○西山委員長 暫時休憩いたします。

午前10時06分休憩

午前10時07分再開

○西山委員長 休憩を解いて会議を再開します。

○西山委員長 大貫委員どうぞ。

○大貫千尋委員 事務局で簡単に調べられるから、3.11の笠間市の人口と今現在の人口、今現在といっても去年の10月とかにでていればそれでよいですから、それちょっと参考に調べてください。

○西山委員長 それは調べることでいいですね。大貫委員の質問は後にしますね。

ほか、ございませんか。

内桶委員。

○内桶克之委員 中間報告で、市長に提出するという行為と、本会議でも当委員会の中間報告を正式に提出して、可決するという事。内容的には、この内容で進めるということよろしいのですか。

○西山委員長 その件につきましては、前回、石松委員の方からでした。本会議で報告するのが決まりではないのかとありましたので、この件につきましては、別途、協議をしたいと思いますので、後回ししてもらっていいですか。

ほかありませんか。ありませんか。

田村委員。

○田村泰之委員 中間報告の件。茨城新聞に掲載されました。私の個人的な意見、個人的な考えになってしましますが、普通、中間報告は、今期定例会で中間報告をしてから新聞に載せるべきと私は理解していたのです。先出ちゃったんで市民の方がちょっと戸惑って不安視されている部分もあります。でちゃったものに対して、私何も否定はしませんが、論点の整理をして、新たに第2回定例会本会議で、論点を集約して、わかりやすく中間報告すればよろしいのではないかとすることを要望いたします。

○西山委員長 内桶委員のと一緒なので、本会議についてなので、後からもう一回整理したいと思います。

石松委員。

○石松俊雄委員 中間報告といった場合、先ほど委員長も言ったように本会議できちんと報告すべきものが中間報告だと思うのですけれど、これは要するに執行部の今後の作業がどんどん進んでいくから、その作業が進む前にきちんと市長に伝えた方がよいということで、委員長と副委員長で市長のところに行っていただいたわけです。これ持って行ったわけですが、結局何も変わらないわけです。数字の導き方は、方法が違うから違うんでしょうということが言われただけで。この件に関しては、何も変わってないわけで、結局、これで報告しても、執行部のこれから進んでいく作業は何も変わらないので、これはこれでもう終わりじゃないかなというふうに、単純にそう思うのですが。

○西山委員長 市長の意見を聴取できました。

その内容の中には、タブレットに掲載されております報告書と一緒に添付をした書類に

ついて、赤い色で提示した数字、その根拠がないものをいかなものかという表現のわけです。根拠がないでしょうということなのです、そこについては。

もう一つは、バイオガス施設の縮小についてというのを、副委員長から提案されたときに、山口市長は、考えられますと。人口減少とか、ごみの分別化による減少、いろいろな意味での環境に関わる部分で縮小できるのではないかなということも山口市長もおっしゃってました。これにしたがって、トータルの処理能力を圧縮することは可能じゃないかという意味合いで、お答えをいただきました。

そういうことを今回報告をしなければならぬということ、お話をしたところです。

先ほど、石松委員からもでましたけれども、本会議で報告することが一番正しいことなのでしょうけれども、スピード感をもって対応しないと、執行部の考え方があるようなので、みなさんの了承を得て、市長に直接提出したということですから、そこはご了承願いたいと思います。また、ご理解願いたいと思います。

畑岡委員。

○畑岡洋二委員 今の委員長の説明の中にあつたのですけれども、参考資料の話は、正直言って、ここでは、もうふれる必要のない資料だと私は思っていたのです。議長の方からということもあつたので、参考として付けましたけれども、それに対しての根拠というのは、私たちも議論をしていないし、それをあまり表のところで議論するような扱いにならないようにしてもらいたい。市長がどう言ったかはさておいて、私たちは、あれに何か根拠を付けたわけではないので、単なる本当に参考です。あの数字が正しいのか間違っているのかは。それはまったくわからない段階で出したことは、みなさんご承知だと思うのですよね。それを市長も何となく感じた、市長の立場として。根拠どうなのかなという話があつたとしても、それはそれで、この委員会としては、まったく議論をしていないし、根拠があるかないかということもしていないのですよ。本当に付けただけの資料だと思いますので、今後あまりふれないほうがよいと思うのです。何か、これに縛られそうなので、市長がどう言ったかは別ですけれども、その辺の取り扱いをしっかりとっておいていただきたい。

○大貫千尋委員 どうなっているんだよ人口、いつまでかかっているんだ。

○西山委員長 局長、どうぞ。

○山田議会事務局長 人口ですけれども、震災当時、平成23年3月31日現在ですが、7万9,904人。直近の令和6年4月30日は7万2,846人でございます。

○西山委員長 大貫委員。

○大貫委員 私は、正直申しまして、執行部並びに山口市長が言っていることをまったく信用できません。なぜそうなのかといいますと、山口市長は当初この計画を我々に話してくれたときは、大規模でいくよということなのです。大規模というのは100トン以上でいくということですよ。

○畑岡洋二委員 言ってないよ、そんなこと。

○大貫千尋委員 言ってます。現実には言っているということは、100トン以上の業者からしか意見徴収していませんので、あなたわかっているのですか、それを。

手を挙げて質問してください。私は、手を挙げて立って質問しているのですから。

○飯田正憲委員 大きい声でやる必要ないでしょう、会議なのだから。静かにやりましょう。

○大貫千尋委員 議長経験者なのだから、人が発言しているときに、そういう勝手な発言をするのであれば、私の発言が終わってから、きちんとやってください。

○畑岡洋二委員 お言葉返しますけれども、人口どうなっているのだと言ったときは、私、発言中だったので。私が発言中に、人口どうなっているのだと言ったのですよ。私はそれでやめましたけれども。

○大貫千尋委員 それなら続けてやったらよいでしょう。

○西山委員長 暫時休憩いたします。

午前10時17分休憩

午前10時17分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

○大貫千尋委員 現実には、小規模の業者からは、アンケート調査を取っていないのです。私は、事実確認できます。何月何日付けで、そういうふうなことをやったということは、事実確認できますので、必要であれば、それを後日提出してもよいです。

それと現実には、3.11時期、平成23年3月31日付けのきに、笠間市の人口は、約8万人、7万9,000人です。今現在、7万2,800人。3.11のときに、ものすごい瓦礫がでたのです。その瓦礫の処理を、ほとんどが柏井の今現在の処理場でやった。そのときの最大ピークが82トンなのです。

だから私は、あの3.11の災害ごみの集積をしたときに、82トンなのに大型で計画を進めるのはおかしい。それから方向転換があって、80トンという規模の焼却施設の目安が公文書で出るようになった。

しかし、今現在、大洗・鉾田の例を見ますと、今現在、我が笠間市のごみの焼却施設の適正規模は70トンになりました。70トンの根拠というのは、70トンの焼却施設を作ると約1割の上限コードが設けられているのです。そうすると77トンまでは焼却できるということです。

現実にはコンサルタントが我々に説明しました。要するに、1例を基に積算しました。1例ですよ。1例。それ公文書で記録に残っていると思うのですが、だから、いろいろ答えられる。

もう一つは、これは総務部長立ち合いの下で質問したかったのですが、極端な話、この間の資料、これ畑岡委員が、参考的なものの取り扱いでよいでしょうというような発言を

しましたが、これは明らかに我々議員全員に配られた公文書なのです。9百何十万円かの赤字で書いてあるのは公文書ではないよ。元の数字は公文書なのです。元の数字は公文書で、結局、100トン、65トンの焼却施設と35トンのバイオの併設。金額、80トンの焼却施設の値段がほぼ横並び、こんなことあり得ますか。

だから、この赤い数字が、例えば信用できる、できないの話であれば、お金を出せば公文書として出していただけです。お金を出さないと公文書としては出てこない、相手も商売人ですから。OBの方に聞いたわけです。OBの方が結局、社員を使って調べてくれた数字ですから、これを公文書とするためには、費用弁償をしていただかねば、どここの会社でこういうことをこういうことに基づいてこういう数字だという形でなければ提出できませんということなのです。

これですね、このままいくと、怪我人がでますよ、委員長。役所に執行部並びに職員、現実に課長が、一時休暇を取った課長、異動になった課長の時期にこの数字のすり合わせがあったのです。これは、我々が、ちまちま話している会議の問題じゃなくなる場合がありますので、慎重に取り扱いのほどをお願いいたします。

意見に対しての意見ですから、畑岡委員からいいかげんな数字かもしれないので、参考にしないほうがよいでしょうというお話がでしたが、私にしてみれば、この元々の公文書がまったくのインチキです。それはインチキだって、正式なコンサルタントのOBが言ってますよ。すり合わせですよ。だれが頼んだのか。普通のコンサルタントこんなことやらないですよ。

○西山委員長 大貫委員にお伺いいたします。

今回の報告に対して、予算的な部分のことにふれてます。公文書ということにもふれていますが、何を伝えたいのですか。

大貫委員どうぞ。

○大貫千尋委員 本来であれば、中間報告の中に、その部分について、明確に記載したものを執行部に提出してほしかったという、私の希望なのです。

我々も一人ひとり、一生懸命勉強してます。実際、数字はごまかせませんから、絶対。数字というのはごまかせない。私個人としては、税金泥棒のお手伝いは一切できないということです。議員の立場上。

○西山委員長 当委員会が開催されてわずかな時に、今回、たたき台になっております比較対象すべき予算化をしてくれということをお願いをしてできました。それに対して、いろいろなみなさんのご意見もいただきながら、さらには別に調査をしてくれた方々がいた。それで、わかりやすく表現いたしました。そのことについては、議論を重ねながら中間報告すべきです。そのことについて報告しました。

ただ、報告をしたことに対して、畑岡委員から出ましたけれども、もう数字のことはよいのではないかということなのですが、まず、執行部が作り上げた数字、それから、いろ

いろな各方面から情報を収集した数字、そこに差異がある、それは、山口市長も認めています。認めています、このことについて明確にふれていないじゃないかという、大貫委員の意見もあります。

それを、かみ合わないまま、6月の本会議で、中間報告というのは、なかなかむずかしいのではないかと思うのです。その辺のところの方向性をつけたいと思います。みなさんのご意見をもうちょっといただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

石井委員。

○石井栄委員 4月22日に調査特別委員でまとめた中間報告ですが、こう書いてあります。採用したアンケートの内容や過去の入札の事例などのデータ数が、別紙資料のとおり比較対象として不十分なままであると判断しましたと。

したがって、本委員会としては、現時点において、新清掃施設整備にあたりバイオガス発電施設を併設すべきであるか否かの判断はむずかしいとの意見を集約したと書いてありまして、要するに資料が不十分だ、そのために判断ができないという中間報告を出したわけです。

ですから、やっぱりこの話の筋に沿って、これから対応していくのが基本ではないかと。要するに出せる資料、出さなくちゃならない資料、出さなければ判断できない資料があるわけですので、それをしっかり出してもらったうえで判断をするようにすることが、この中間報告に沿った、今後の対応ではないかと、私は思います。

以上です。

○西山委員長 それでは、石井委員の言っている数字ですか、これからさらに、こまかいこと出していただきたいということですが、出すべきものありますか。今までの流れを見て。コンサル業者も呼んでおりますし。

ありますか。石井委員。

○石井栄委員 私はあるというふうに思っています。コンサル業者は、出すように支持は受けていないので、今は出せませんというような回答がありました。それで、執行部に、その辺はどうなのですかと聞いたときの、執行部の答弁については、段階ごとに出せる資料があるので、今はその段階ではないというような趣旨の発言をされたのです。

段階ごとという判断は、執行部の都合によるものかなと私は受け取りました。それで、その辺の資料を出す、出せない、この段階にしか出せない、今は出すべきではないというような話もこの不十分の中に含まれていると私は思っております。

今回言われておりますのは、バイオガス発電施設の費用がどれだけになるかというのを、一体になっているから出せないというような、そのようなお話だったかと思うのですが、その辺については、いろいろ意見がありました。いやそんなことはない、きちんと出せるはずだというような意見もかなりございましたし、その辺は、資料不足という私の認識の一つの構成部分になっております。

以上です。

○西山委員長 それではですね。みなさん、ご意見あろうかと思いますが、2点だけ、みなさんに議論していただきたいと思います。

1点は、報告をした際に、市長からの意見で、畑岡委員は不本意かもしれませんが、赤字の数字についての根拠が乏しいのじゃないかという指摘を受けたんです。本来の、元々の執行部が提出した、公文書だと言ってますが、提出した数字がでております。この根拠も曖昧のまま進んできちゃっているように思われているのです。この際ですから、この数字のことを、どのように扱うか、これについて、みなさんの意見をいただいて、方向を決めたいと思うのです。

赤字の数字の根拠の件、それから執行部が提出した数字の扱いについて、みなさんのご意見をいただきたいと思います。

畑岡委員どうぞ。

○畑岡洋二委員 執行部が出した数字に関してなのですけども、正直いって私もうかつだったというか、資料を読み切ってなかったという恥ずかしい話になんですけども、みなさん、ひょっとしたら全部見ていたのかもしれないですけども、4月11日の第15回に出された資料の中に、正直言って、1個しか出てないという言葉が私の中でずっとあったので、こんなに出てたのというのが、申し訳ないけれども、本当に恥ずかしながら、これだけしっかりでていたというのが気が付かなかった。

みなさん、今言うてように4月11日の第15回の中の15ページに、タブレットに載ってる表14というのを見ていただけないでしょうか。これは執行部が出した資料になるんですけども、数字が正しいかかどうかはさておいて、こういう数字がでていたということを確認していただきとと思って、言っているんですけども。15ページです。

○西山委員長 資料は12ページで、タブレットは15ページ。

○畑岡洋二委員 タブレットの15ページです。表14。

○田村泰之委員 いつの資料。

○畑岡洋二委員 15回です。ですから、これだけでいたのに数字として読み切ってなかったなということで、一回みなさん、これを見たらどういう判断されるかなということだと思っております。

だいたい、みなさん資料に気づいたと思いますので、ここに、1から9までの実際の参考、これはもう推定ではなくて、わかる範囲での確定情報であると思うのです。1番から9番まであって、執行部が思考してる方向の焼却施設プラスバイオガス発電の中で、結局、これだけでいたのだけども、比較対象とした1個しか取り上げなかったということだったのでしょうか。見たときに1番目の兵庫県の南丹広域行政事務組合があったり、近いところだと、それよりもちょっと小さい宮津与謝環境組合、京都府、4番ですね。京都なので比較するには大きすぎるので比較しようがない。

一番下の検討中、三木市、兵庫県、たぶん、この辺の3つが笠間市でやるとすれば、似たような大きさになるのだろうと。この辺の数字が、ある意味比較するのであれば、確からしい数字であろうと。厳密にいうと確かでないですけども。そうすると、これ以上の数字は、たぶん今後のインフレというか物価高騰のあおりを受けてどうなるかという話をすると議論はできないので、そうすると、数字としては、ひよっとしたらでていたのかなと思うのです。比較の仕方が悪かったと思います。

ということで、ちょっと正直言って私、ここまで読み込んでいなかったという恥を知ったのですけれども、そういう意味では執行部の表現のしかたのいい悪いありますけれども、資料とすると、そこそこ出ていたのではかなという気がします。

ということで、私のように気が付いてない方もいらっしゃいましたら、これ、読んだらいかがかなということです。

○西山委員長 大貫委員。

○大貫千尋委員 今の畑岡委員の発言は、まったく個人的な予想ですよ。だろうという話だから。だろうじゃなくて、きちんと自分で精査したうえで、ここがいくらだから、ここがいくらだから、ここがいくらだから、今現在、物価スライドを入れない数字だとこうなりますという数字の出し方をしてください。

だろう話は聞けない。会議で話す話ではない。

以上です。

○西山委員長 畑岡委員の言っているのは数字ではなくて、要するにそういう意味ではなくて、きちんと、執行部もだして、比較対象なのだけれども、それ以上の部分では、ちょっとむずかしいのではないかとということだと思っておりますよ。出せないのじゃないですかということ。

大貫委員。

○大貫千尋委員 比較対象表を作ったコンサルタントの答えが、1社しか参考にしていない。逃げ言葉がありました。逆にとらえると何社も合わせると数字がおかしくなるという。言い逃れにも、私には聞こえたのだよ。

現実にこの赤の数字はどのようのこの話がありますが、この赤の数字は、現実に江戸崎でも銚田でも行われているのんです、実際。公文書として、こういう形でもう提出されているのですよ、みなさん。インターネットで取れますから、自分でも精査できますよ。具体例が出ています。だから私は、結局、赤い数字がどのようのこの畑岡委員の意見に対して、否定的な発言をとったわけです。

実際、日本を4つぐらいに分けた各地域ごとに、一般財団法人というか、こういうものを専門に取り扱っている部署があるのです。国家公務員のOBの再就職先になっている。そこは、正式に数字をだしてくださいと言えば、お金を払ってくださいと。私はOBだから、概算で、部下を使ってだしてあげたけど、正式に表に出すのであれば、財団法人に発

注をしていただいて、それで、お金を払ってください。だから数字が、どうだのこうだのって話があるのであれば、みなさんが本当の数字を知りたいのであれば、出せるのですよ、お金を払えば。それは結局、50億円で済む仕事が、100億円払うことですから、100万、200万円払っても惜しくはないです、私の考えは。

そのことも含めて議論してください。

○西山委員長 今、数字のことを協議をしておりますが、赤字の件について、今一度みなさんの意見を組み入れながら、今の大貫委員の意見につきましても、新ためて、根拠となる、市長が言っている根拠となるものを費用をかけてでもやるべきだということなのですが、みなさんのご意見をいただきたいと思えます。

石松委員。

○石松俊雄委員 この前も言ったのですけれども、要するに、この金額が、バイオガス併設の方が安くできますよという資料がでてます。この資料の信頼性がどうなのかという、そういう話だと思うのです。信頼性がないから、信頼性がないということを正確な数字で証明をしていこうということなのでしょうけれども、ただ、この前も言いましたけど、市長は、多少バイオガスの方が余計に費用が掛かったとしても、バイオガス併設で行きたいというふうに言われているわけじゃないですか。そうすると、私たちが、赤字のことを一生懸命検討していても、もう先に進んでいっちゃうわけですよ。

そういうふうに進んでいくのであれば、ここの数字の根拠にこだわっているよりも、次の段階の話に、私はやっぱり、調査も進めていかなければいけないのじゃないかなというふうに思うのです。

そうすると、ここの数字の信頼性については、業者の信頼性については、委員会としては、信頼性に乏しい、信頼できないという結論は出したけれども、それはそれとして、整理をして、次の段階に、調査内容は、私は進めるべきではないかなというふうに思います。

○西山委員長 はい、ご意見出ました。

大貫委員どうぞ。

○大貫千尋委員 今の石松委員の次の段階っていう話を具体的にお聞きしたいです。

○西山委員長 特段の意見ありますか。

石松委員。

○石松俊雄委員 次の段階というのは、委員長が、この後議論するというふうにおっしゃっていた中身も含めてになるのですが、論点整理はきちんとしたほうがよいと思えます。

それは、一つは、ゆかいふれあいセンターのことを委員会の中できちんと議論してきて、一定の押し返しという言い方が適切かどうかはわからないですけども、ゆかいふれあいセンターは、迷惑施設の代替施設ではなくて、今はもう市民全体の施設として使われているのだと、そういう中で結局どうなるかというのは、曖昧のままになっているから、この辺はやっぱり論点整理をきちんとしなければいけないかなと思うのと。

二つ目は、今言っている建設費、建設コストと運営コストの数字の信頼性ですよね。これについても、やっぱり委員会としては、信頼が持てないという、そこを。

この二つが委員会の論点になってきていると思うから、そういう論点整理を中間報告に向けてやるというのが、次の段階だと思うのです。

そのうえで、もう具体的に余熱発電利用計画の作業にも入りますし、アドバイザー契約にも入っていきますし、事業手法の検討にも入っていくわけじゃないですか。これはもう、日程表からいくと6月にも入っていくようになっていましたから、その内容について我々もきちんと執行部の内容について聞いて、その中身がどうなのかという議論を、その次の段階でやっていくべきじゃないですか。

それが私は次の段階だと思っています。

○西山委員長 大貫委員。

○大貫千尋委員 長い笠間市の議会の流れの中で、私は勘違いしないように気を付けているのですが、この調査特別委員会が全員で構成されてやっているわけですから、執行部がこういうふうにより、執行部はこういうものを作りたいという反面、議会ではこうすべきなのだという答えを出すべきだと。執行部が出したものに対して、賛成だよ、反対だよと、それもいいでしょう。それでは、あくまでも、議会が受け身なだけで、両輪ではないです、二元性が保たれる。我々は22名の議員で、執行部に対して提案もしていかなければならない。

現実に数字的には70トンの単純焼却炉で間に合う状況なんです。それが、65トンの35トンの100トン規模に、何でする必要があるの。思いは構わないですよ、思いは。市長の思いは。市長がだしてくれればいいです、市民の税金ですから。市民の税金をどのように使われていくかということに対して、我々が、意見を言えないということはないでしょう。

私は次の段階に進む前に、正式に中間報告じゃなくて、議会としてこういう施設で、この規模で、やるべきだという意見の集約を、まずしていただきたいと思います。

曖昧の方法で進んでいくとたいへんな問題ですよ。補助金なしですから、運営費は。運営費だけで、これ20年間で、50億円も60億円も違う数字が出てきているわけですから、現実に。たいへんな問題、これは。私らはやめていっちゃう議員だからいいかも知れないけれども、残る議員さんは、もう稼働し始めたときから、何でああいう方法でやっておけばよかった、こういう方法でやっとならばよかったという話になりますから、これ現実には。

お願いします。

○西山委員長 大関委員。

○大関委員 私が言うのと議長っていう立場で、発言しちゃっているようなところもあるので、まずいのかなとも思ったんですけども、ただ、前から言ってるように、運営費の問題がありました。先ほど大貫委員の方から、銚田・大洗の落札が終わりました。建設工事に入ろうとしております。契約は終わりました。近場ではあと一つ、鹿嶋・神栖で4月か

ら稼働が始まりました。どちらも運営費は、200億円はいいません。135億円ぐらい。規模的には、同程度の規模です。バイオは両方ともやっておりません。そういった中で、運営費、バイオを入れた部分の運営費と高効率あるいはストーカ方式だけの運転費はどうかという調査をした結果、我々のところに、示されている200億円以上の運営費というのは、バイオを使わない高効率のストーカ方式の両方とも、これよりも、今言った、60億円ぐらいの定額の、130億円ぐらいか、それ以下のもので、十分可能であるというようなものはいただいております。

また、市長と一緒に北海道の遠軽町、友好都市結んでいるところへ行ってきました。その帰りに恵庭市の方へ、焼却施設があるので寄りたいというので、一緒に同行しました。それで、そのときに、私は、運営費のことだけ聞いてきたのです。そうしたら、運営費は、100億円いいないんです。しかも、稼働して5年目になるのですが、100億円いいなくて、しかも、故障したりなんかした部分は、運営費の中に含まれますよというような回答がきました。ということは、運営費に関しては、200億円の数字が、あまりにも高すぎるというふうに感じてまいりましたので、その辺のところも精査したうえで、進んでいけたらいいのじゃないかなというふうに思っております。

ただ、入札前の額として、入札をするときには下がってくるだろう、数字が。そういうものというのは多少あります。多少ありますが、それは多少でありまして、市長も多少の違いだったならば、バイオを取り入れたいという、ご意見を我々のところでありました。この多少というのが、どのぐらいの数字が、多少に値するのかというのも、考慮していかなければならない数字の問題なのというふうなものは感じてまいりました。

でありますので、運営費も含めた中で、もう少し、精査をして、そして、石松委員が言ったように、次の段階に、それも含めた中で、次の段階を視野に入れて、この会議は進んでいけばよいのかなというふうに思っています。

以上です。

○西山委員長 はい。どうでしょうか。ほかにありませんか。石松委員からの意見と大貫、大関委員からの意見では、ちょっとニュアンス的に違いますが、今後の進め方の中で、当然出てくることなのですが、どうでしょうか。みなさんのご意見いただきたい思います。

大貫委員。

○大貫千尋委員 この焼却場の問題は、何も急ぐ必要ないのですよ。今現在も直しながらも使えるのだから、結論を急いでその施設を作っちゃうと、たいへんなことになります。

今、執行部が計画発表したものは、ストーカ方式の2炉方式で65トンに35トンのバイオでしょ、そんなごみないですよ、笠間には。現実にはストーカ方式2基で70トンで、十分間に合うのですよ。余計なものなのですよ。

現実には、ここ近年の例を取ってみると、バイオやっているところはないのです、現実には。それは、たいへんなのですよ、バイオというのは、メンテが。思いっきり高額のお金

をかけて、オールステンレスにしちゃえば、かなり違うんです、オールステンレスにすれば。それを鋳鉄とか鉄製品とか、そういう感じでやると、環境組合の議員さんは、わかると思うんですが、真っ赤に赤さびして、何年かに1回交換しているのです。あれね、7,000万円ぐらいかかる。

だから、原点に立ち返って、シンプルイズベストで、市民の税負担を極力下げるということ、思いは何の思いでもかまわないですよ、思いは。思いはかまわないですけども、現実買い物するときには、お母さんは、実用にあった形で、買い物します。お金がないので、これ借金で始まるわけですから、その辺、よく、冷静に考えてください。先々、長く議員やる人は。

○西山委員長 内桶委員。

○内桶克之委員 特別調査委員会の調査としては、調査としての結論は出るかもしれないけれども、それに対して、執行権がある市長部局がどう動くかというのは、また、別の話だと思うのです。根拠を付けて、数字をだしても、こちらの根拠の方を、私たちは信用すると執行権がある方が言ったら、それは、終わりです。

議会として議論をして、最終的に判断するのは議会全員なのです。委員会ではなく、本会議の議決というのが、最終手段になってしまうので、私たちは執行権を持たない調査をするしかないと思います。その判断の中で、どちらを信じるかというのは、個人の判断であって、そこを、どういうふうに導き出していくかというのは、私たち個人の判断によるものだと私は思っているのです。

私も、この前のコンサルの説明の中で、アンケートが1社しかないとか、追加して見積を取ったけれど、それは採用しなかったという、その判断がなぜなのかということとはわからないですけども、それを有効だとしている執行部も、大貫委員が出してくれたこの前の数字、それも根拠がないですけども、幅があるので、ここらへんでできるだろうという数字を比較して、各議員が判断していくしかないと思うのです。

それを精査するというのは、予算がない私たちにとっては、ちょっとむずかしいのじゃないかと私は思っているので、その判断は、議会の議員が最終的な判断をしていく。また、調査していくうえで、やっぱり、今までの中間報告を頭において、これからの議論の中で、しっかり議論するのが大事かなと私は思っているので、ここは、この中間報告を受けて、前に進んでいく。また、中間報告は、その内容が、数字の根拠がむずかしいと言っているので、そこを見据えながらやっていくしかないと思うのですよ。

という進め方しかないかなと、私は思います。

以上です。

○西山委員長 酒井委員。

○酒井正輝委員 ちょっと話戻るんですけども。第15回資料の表14の話が出ましたけど、今、論点になっているのは、バイオありの場合となしの場合の差異の話だと思うので

す、お金の話。表14というのは、バイオなしの場合の焼却の場合のみの数字というのはいないので、話の性格が違うのかなと思いましたので、ちょっと整理しておこうかなと言っておきます。

今、話を聞いていて、一つの論点というか、曖昧な部分というのは、先ほど正副委員長が、意見を提出してきましたよという話の中で、市長も算出方法にはいろいろあって、そのため差異があるのだろうと、そこは認めていると。違う数字があるということは認めているけれど、じゃあ、何でこのコンサルが出してきた数字が正しいと思っているのかという、そこを示せてないということに、示せてないのに、先に進んじやっているよというところが、おかしいでしょうという話だと思うのですよ。2つ数字があるのに対して、なぜ、こっちの数字だけに重きを置くのですかというところがおかしいでしょうということなのですよ、簡単に言うと。

そこをはっきりさせたいので、先に進むか。進まないにしろ、執行部のスタンスに対して、疑問がありますっていうのを、もうちょっと固めるかどうかというのが、一つの意見というか、委員会の意志として、どうするのですかと求められているのかというのは思いました。

そこを、次に進むにしろ、このまま、いっちゃうのか、ここを強調するのかというのが、一つの議論の論点なのかなと思いました。

○西山委員長 意見の中に、大きく二つになっているのかなと。

一つは、あまり予算的なこと数字にふれない。それをやっても、根拠がないものを議論するには値しないだろうと。それよりも、市長の思いがそこに組み込まれている少しは違ってやるべきだろうということで、言っている意見を尊重すべきという意見と。いやいや、間違いなく数字が、その根拠が示されてない中で、どちらもないとすれば、その数字について、きちんと精査をもっとすべきであるという意見。それを、まとめて議会の意見とすべきだ、委員会の意見とすべきだ。そういうことを中間報告の中に入れるべきじゃないかという意見のように聞こえましたが。

そうしますと、数字のことをきちんとすべきというのが、委員会の立場ではないかという考えと、建設に対して、市長の意見も踏まえて、そのうえで、予算は予算として、前に進めるべきではないか。もっと別な議論の案件があるのではないか。だとすれば、それを、進めるべきではないか。という、大きく二つだと思うのですが。

どうでしょうか。

石松委員。

○石松俊雄委員 大きく二つというか、執行権ないから、進んでいくんですね。進んでいくのに対して、我々調査特別委員会は、やっぱり対応すべきだというのが私の意見です。じゃないのですか。さっき、内桶委員が言われたのですが、我々執行権ないわけですから、特別委員会で調査した結果、執行部に示した数字に対して信頼性が乏しいというのは、

調査特別委員会の調査結果だと思うのです。作業が次に進んでいくから、次のことも我々調査しないとイケないんじゃないでしょうか。

それが調査特別委員会の役割だと私は思いますけど。

○西山委員長 今おっしゃるとおりで、その点を踏まえて大貫委員から意見が出ました。

間違っているのをわかっているのに、進めるわけにはいかないでしょう。これが調査特別委員会の立場じゃないのですか、という意見になったと思うのです。なので、二つに大きく分かれるのかという、私は、立場上、お話したのですけれども。石松委員の意見の中で、数字のことについては、ちょっと根拠に乏しいと断言していると思うのです。そのことについて、石松委員の意見は数字はあまり、関知しないというか、あまりふれないという考え方なのではないでしょうか。

石松委員。

○石松委員 ここに出ている結果をそのまま中間報告としてまとめればよいというふうに思っています。

○西山委員長 なるほど。石井委員。

○石井栄委員 先ほど畑岡委員から指摘があった件について、資料を見てみたところ、この資料を検討することによっても、いろいろな問題を深めていくことができるのかなというふうに思いました。

これからの進め方についてなのですけれども、中間報告にありますように、資料不足で判断できない状況にあるわけです。新しい別な問題もあります。ゆかいふれあいセンターの問題とか。それをどうするか。

現在の計画を執行部は進めているわけですけれども、それについて、十分判断ができません、判断ができないよという中間報告のまま、執行部が進めているわけですので、それについては、もっと資料を出して、議論を深めていく。議論はしていけないと責任は、十分果たせないのです。

ゆかいふれあいセンターの今後の在り方についても、同時並行で進めていくべきなのではないかというふうに思います。執行部が執行権に基づいて、進めているというのはわかりますけれども、それは執行部の判断でやっているわけですが、それについては、もう仕方がないということでは、調査特別委員会の仕事として、その仕事を十分果たせないのではないかなと。同時並行でやっていくべきだと。

以上です。

○西山委員長 ここで、休憩いたします。11時15分まで。

午前11時06分休憩

午前11時15分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは、いろいろ意見がございましたが、提出いたしました中間報告書に対するご意見、それから、それを踏まえて今後にということで、進めていきたいと思うのですが、まず、1点は、数字の提示をしまして、参考資料として出しました。03中間報告書の添付書類を見ていただきたいと思います。わかると思うんですが、数字については、現段階で、赤字の数字についても、どちらも、根拠に乏しいというのが、当委員会の今現在のご意見ということで、確認をしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

そういうことになりますよね。それは、市長もそのように解釈しております。そのうえで、バイオガスの規模縮小という提案を副委員長の方から出しました。そういうことは提案というか、考えられませんかという、持ち帰るための部分として、バイオガス施設の規模縮小は考えられないのですか。その意味は、現在の笠間市の先ほど人口の推移がありましたが、笠間市の今後を見据えて、笠間市を思って副委員長の口からでたことなので、それはご理解をいただきたいと思うのですね。それに対する、市長、執行部、市長側のご意見、回答というか、思いというか、それは検討の余地ありだということでもあります。縮小もあるよねと。先ほど、石松委員からもありましたけれども、市長の意見というのは、バイオガス発電施設を併設してやりたいのだということがあるのだから、まず、それについて、向き合おうじゃないかということでありましたが、その中で、さらに掘り下げて、その施設の縮小、規模縮小について、意見というか、話をしたところ、それはありきですよ。ありますよねということ、報告にもありましたとおり、そういうことでもあります。

それを踏まえて、当委員会の今後の進め方ということで、方向性を出したいと思うんです。

今後についての中で、先ほど二つに大きく二つに分かれたというお話しましたが、数字の根拠が示されていないので、その数字の根拠というのは大事だと、それをまず、きちんとすべきじゃないかと、それが調査特別委員会の立場じゃないか、執行部は執行部としてというのが一つ。

もう一つにつきましては、執行権を見据えた場合、計画が進んでいく、先行していく、それに対して、今、数字のことをお互いに根拠が乏しいということは、理解しているのだから、そのうえで、次のステップ、次の項目をきちんと、市民に寄り添った委員会として進めるべきじゃないかというのが、もう一つの意見というふうに認識しておりますが、これについてどのようにしましょうか。

ここで二つの意見が大きく違いますから、ここで留まって、もう一回見直すべきだという意見と、それはそれでいいのじゃないかと、それから、もっと建設的にこれから先のことを考えるべきじゃないのかという二つの意見になっています。

方向を決めなければ、次の委員会を開いたとしても、同じこと。毎回同じことの繰り返しになってしまうので、ここで方向、軌道をちゃんとしたいと思うのですが、これに対してみなさんのご意見をいただきたいと思います。

大貫委員どうぞ。

○大貫千尋委員 まず1点は、規模を。何をやるうがかにをやるうが、バイオをしようが何をしようが、総合的な相対的な規模。これは一般常識的に、大体1万人に対して10トンなのです。みなさん、私が言うことがうそだと思うんだら勉強して、次回、発表してください。1万人に対して、約10トン。そうしますと、3.11のときに、7万9,000人というのは、破砕したごみも含めて、ピーク時で82トンだったのです、これが実績。今現在の処理能力は、110トンぐらいあるのですよ。あのときもだいぶ、内部での議論はあったのです。ただ、あの時期にちょうど流通センターというか、工業団地の問題があって、6,000人ぐらい増えるだろうという話もあったものですから、それで、笠間は入っていませんよ、あの当時、内原ですよ、内原イオンができるよと、人口が増えるよというので、適正は80トンだったのだけれど、110トン規模でやったわけですが、現実的には。

1日焼却、最大で16時間、だから、炉が壊れやすい状況だったんです。炉は24時間燃やしていないとダメなんだ。耐火煉瓦が冷めたり暖まったりすると壊れやすいのですよ。

そういう中で、今現在の令和4年の6月30日現在で、7万2,000人、人口増えていないですよ、この笠間市は。最大で今現在、最大規模でやって70トンなのです。ただ、要するに5%から1割近い容量のあれはありますから、最大時で77トンまでは大丈夫なのですが、その規模、規模ぐらいは、この委員会で、このぐらいでやるべきじゃないかという、規模ぐらいのお示しは、いつの時点かわかりませんが、最終的にはやっていただきたいですね。

結果的にこれ悪い結果がでたときに、議会も賛成したでしょうよという答えが返ってきますからね、必ず、執行部からは。我々ばかりじゃないでしょうよ、議会も賛成したでしょうよ。我々は、税金泥棒の手伝いさせられっちゃうわけですよ。そうなりますよね。

だから、規模の限定を、まず、みんなで決めていただいて、方法については、次の段階の議論で、執行部がこういう方法、じゃあ、調査特別委員会はどういう方法がいいだろうという結論の收拾の仕方をやっていただければと思います。

○西山委員長 はい。ただいま規模の部分に触れましたが。

田村委員どうぞ。

○田村泰之委員 大貫委員が言うのももっとものことでありますが、以前の委員会のときに話させていただきましたが、人口が減っているからごみが減るという固定観念は持たない方がいいです。この間言ったように、調理定年といいまして、便利な世の中になった分ごみも増えているというのが現状なので、そういう言葉もこれから勉強しながら、進んでいきたいというのが一つ。

あと、バイオの縮小とか、益子副委員長が市長にお尋ねしたと。それは理解はしていますが、日本の情勢、世界の情勢を見たときに、日本はどの方向に向かっていているか、世界がどの方向に向かっていているかと考えたときに、脱炭素社会というのを唱っているのも、そういうのも、もっと深く掘り下げて考えて、議論していった方がよろしいかと私は思います。

以上です。

○西山委員長 はい。坂本委員。

○坂本奈央子委員 今後の進め方というところの議論だと思うのですが、今回の特別調査委員会を設置したことによって、提示された数字に対して、差異がありますということが分かったということがこれまでの調査結果の意義であり、今回、委員長と副委員長で市長に対して中間報告ということで、提示していただいたということが、これまでの、調査の結果であると思うので、いったん、そういう差異がありますよねという、認識を持って、先ほどらい、石松委員や内桶委員から今後の進め方で、執行部の方がどういうふうに、スケジュールどおりに進んでいく内容について、やはり今後は、調査特別委員会としても、その次のテーマについて、調査を進めていく方がいいのかなと思います。

○西山委員長 はい。ほかにありますか。

石井委員。

○石井栄委員 私は、今後のことについての検討をしていくと同時に、今、不明だということについても、調査を進めていくことが、必要なのではないかなと。実際には、時間を半分くらいに区切って、この件についてと、今後の課題について、同時に。片方はもう終わりにして仕方がないということではなくて、検討の余地はありますので、検討を続けていきながら、今後の問題についても同時に進めていくという。委員長が言われた二択ではなくて、三択を。私は、その方がいいのではないかなというふうに思います。

以上です。

○西山委員長 はい。石井委員にお尋ねいたします。不明な点というのは何を指しているのでしょうか。それから、今後のことというのは何を指せばいいのでしょうか。

○石井栄委員 不明な点というのは、建設費に関わる数字のことについても検討の余地があると私は思っていますので、その件について深めるということですね。それともう一つ、今後のことというのは、先ほど言いましたように、代替施設のゆかいふれあいセンターの問題が大きな関心事になっているわけですから、そういう問題について、同時に、委員会の中で議論を進めていくということが望ましいというふうに私は思いますということです。

よろしいですか。

○西山委員長 ただいま石井委員から出ました建設費の先ほどから言っている差異がある部分。調査をした結果のものを赤字で出しました。それから、元々のコンサル業務上出た数字、これは公文書というのですが、これに対する根拠が乏しい、双方乏しいのじゃな

いのかということはどうでしょうかというのが、ちょっと引っかかるところかなと思うのですが。

どのようにしましょう。

それはそれで飲み込みますか。

大貫委員。

○大貫千尋委員 これは、飲み込む、飲み込まないの問題じゃなくて、執行側は、900万円、1,000万円近いお金を出して、この数字をコンサルに出してもらったわけだから、実際、赤の数字の証明は、そんなにむずかしくないのです、簡単なのです。実際例があるわけだから、ここ2、3年の。3つも4つもできているわけですから。

一番、私も議長も困ったなっているのは、運営費の問題なのです。作るときには国からいくもらったり、3分の1もらったり、2分の1もらったりして何とか作れる、合併特例債とか使って。ただ、運営費というのは、一切補助金ないのです。だから、このコンサルタントの指導の元やった場合は、約20年で200億円近い、補助金なしのお金を年間10億円ずつ出していくということです、運営費。それが結局、高効率発電の7、80トンクラスでやれば、130億円だから、年間6億5,000万円から7億円ですむということです。この件に関しては、議員のみなさんは真剣に考えていただかなければならない。これまるっきり市税からの持ち出しですから。逆言ったら、赤い数字も、証明は費用弁償すればしてくれるのですよ。

これ委員長から山田局長に聞いていただきたいのですが、予算措置できるのですか。

○西山委員長 大貫委員ちょっといいですか。まず、大貫委員からの意見については、赤い数字の根拠が出れば、現在の数字の誤差というか間違いが出るという言い方にとりましたが、それについてどうしますか、扱いについて。差異があるということでみなさん納得して、その差異がある部分で根拠が乏しいから、差異が出てくるんだということで認識していると思うんですよ。これは執行部、市長も一緒です。それを今、調査特別委員会なのだから調査すべきじゃないかと。それには予算化しなくちゃならないので、これが限界だということですから、それについての扱い方をどうしますか。

はい。石松委員。

○石松俊雄委員 調査特別委員会が調査すべき内容に関わってくると思うのですね。たとえば、運営費についても、7.5かける20年で150億円と出てますが、片方では、プラスチックごみが分別になった場合ごみの水分量が増えるから、高効率発電ができなくなるというのも、執行部の方から出ているわけじゃないですか。それをいちいち調査するのが今の段階ではなくて、今は、3つのうちのどれを選択するのかということを決めるためにデータが示されているわけであって、バイオガス発電を併設にするのかしないのか、それとも高効率ボイラー発電にいくのかどうかと、ここの判断をするのが課題なわけです。

執行部はバイオガス発電併設でいきたいと言っているわけじゃないですか。それについ

て、我々はどういう評価とをするかじゃないですか、まず結論を出さなきゃいけないのは。

数字ではないと思うのです。私は多少の数字の違いがあったとしても、バイオガス発電併設でいくという執行部の判断はいいのじゃないかなというふうに私は思っています。

○西山委員長 どうですか。

はい。河原井委員。

○河原井信之委員 執行部が出した黒い数字と赤い数字があるというのは当たり前だと思うのです。まだ実施設計する段階ではないですから、実際に行われて竣工した数字と今の段階での数字のすり合わせというのはあまり意味がないと思います。

○西山委員長 はい。田村委員どうぞ。

○田村幸子委員 私が思うところなのですけれど、実際、今回の市長との懇談の中で、中間報告にありますように、事業費の算定にあたって採用したアンケートの内容や過去の入札の事例等のデータ数が別紙資料のとおり比較対象として不十分なままであると判断したということはお伝えしてあって、そして、しっかりとその差異を見ていただいた中でお互いに認識をしたと。これは、こちらも認識していいのかなと思ったのです。

もう一つは、バイオの併設という部分がどうしていくのかということ。金額に関しては、次どういう施設にするかという部分と、金額的なことというか、建設費とか、運営費とかというのは、それによって変わってくると思います。その部分は認識していただいたと、こちらも、了解をしていかないと、当然、前に進めないのかなって思いました。

いろいろな施設、全国、全部、違うと思いますから、比較に対象できる施設がどこまであるかというと本当に大変なのかなと、今までいろいろと議論してくる中で、私自身も感じました。

これからどういうふうに、お金をかけずに、なるべく負担をかけずに、市民のみなさまに納得していただくような施設にしていくのかというのを、逆に議論していくことが大事なのかなと思いました。

バイオに関しても、副委員長の方から提案をしていただいて、縮小もあり得るという市長のお考えもいただいたということでもありますので、そのところは十分、こちらの思いも、反映していく余地があるのかなというのを感じましたので、そういった方向に進めて、前進していけたらと思います。

○西山委員長 はい。酒井委員。

○酒井正輝委員 確認したいのですけれども。伺いたいのですけれども。赤い数字の根拠の蓋然性を調べるとなった場合というのは、委員に対して、何か負担がかかるのですか。つまり、それを外注というか誰かに調べてもらうのだったら、ほかの議論進めながら調べるとするのは、私はいいのじゃないかと思うのです。仮に赤い数字の方の根拠が正しいとしたら、前提条件変わってくるのです。結構無視できない案件だと思うのです。執行部とかコンサルが意図的かはわかりませんが、間違った数字に基づいて話進めちゃって

いるという話だから、これ結構大事な問題だという話です。手立てがないのだったら進むしかないのですが、調べる手段があるのだったら、どれぐらいコストがかかるのかわからないのですが、コストに見合っているのだったら、調べてもいいのじゃないかなと、私は思います。

あともう一つ言っておくと、この話ばかりに収まってしまうというのは、個人的には不満で、石井委員の意見に近いのですが、ほかの話も同時並行できないのかなと思うのです。

個人的には、前々から言っているのですがけれども、そもそも、バイオ施設はいるのというところに、非常に疑問をいっているのです。で、第10回に示したCO₂の削減効果という計算式だしてきているのですが、これによると、今の計画まま進めると、逆に、本市が進めるプラスチックごみゼロ宣言、ゼロカーボン宣言に、失礼、プラスチックごみは別として、ゼロカーボンシティ宣言とか脱炭素の取り組みから遠ざかっちゃうという数字をだしてきているのです、第10資料で。なぜかという、聞かれたら答えますがけれども、結論から言ってそういうことなのです。

そういうことも、田村委員からも出ましたけれども、そういった議論も、本当に環境にいいのという、私は、同時にしたいなと、前々からそう思っています。

という要望を伝えておきます。

○西山委員長 それでは、意見の中に、かみ合わないところが、それが民主主義なのでしょうけれども、いずれにしても方向を付けたいと思うのです。次に進めるにしても、ですね。数字の問題もしかりですが。

一つずつ、つぶしましょうか。

先ほど予算の話がでましたけれども、まず・・・

〔「その前に一つ」と呼ぶ者あり〕

大貫委員。

○大貫千尋委員 今、酒井委員が言った意見はいい見どころなのですよ。

というのは、ある施設がバイオをやらなかった理由は、CO₂の削減というのは、建設時にもCO₂は出しているのです。要するに、それを運営していくうえでもCO₂は出るのですよ。だから、客観的に考えると、バイオを併設することによってCO₂の削減に寄与しているのかというと、寄与していないという結論が出たのです。それで結局、ある町では2年ぐらい計画をしていたのだけれど、バイオを切り離して単独の70トン規模の焼却場にした。CO₂の計算の仕方がいろいろあるのですよ。

いい着目だと思います。

以上です。

○西山委員長 それでは、まず一つ決めたいと思います。

大貫委員からでました。ほかの委員からもでましたけれども、赤字の調査について、

可能ならばやるべきだろうという意見がありました。可能ならばというのは、可能なのですけれども予算が伴うということなので、このことについて根拠を取るべきかどうか。

だとすれば、予算化が必要なのでみなさんのご理解をいただきたいと思います。

まずは、調査をすべき、きちんと根拠を示すべき、示すべきという考えの方、挙手をお願いします。調査をすべき、根拠を出すべき、費用は伴いますがやるべき。

はい。ありがとうございました。

そのほかの方は、調査は不必要であるということでもいいですか。

よろしいですか。

畑岡委員どうぞ。

○畑岡洋二委員 清掃センター、クリーンセンターは公共施設です。過去に結果としてやったものの数字というのは、多分公表されているのだらうと思います。それはいろいろなコンサルを使うとか、どこかを使うとはではなくて、それを管理している地方自治体なりに聞けば結果はわかると思うのです。今後のことは、自治体は絶対わからないですけれども、それはコンサルも一緒だし、メーカーも一緒だし、これまでやったことであれば、それはお金をかけてうんぬんよりも、関わっている自治体に聞けば出てくる数字だと思っています。それは今、手落ちであればやるべきだと思いますが、お金をかけてやるほどのことではないと、自治体に聞けばいいことだと思うのですよ。メーカーではなくて、プラントメーカーではなくてと私は思っているのですけど、これって、間違いですか。結果として、やったものに関して、今言ったように公共事業だから、公表されていると思うのですよ。

今後の話になると、結局はどこまでいっても、見積もりなので、不確かさが残るという認識なので、数字に不確かさがという、これまでのことの情報収集は足りないものがあるれば、関わっている自治体に聞けばいいだけだと私は思っています。

以上です。

○西山委員長 その件は、もう出ていると思うのですが。

はい。大貫委員どうぞ。

○大貫千尋委員 それは、だしてもらった数字に対して、もらっているのですよ。

○畑岡洋二委員 結果はもう出ているでしょう。調査する必要ないのじゃないですか。

○大貫千尋委員 その結果が信用できる、できないという問題だから、要するに信用できる人にだしてもらおうか、もらわないかなのだよ。現実には、これ事務局でできるのですよ。インターネットでも取れますよ。

○西山委員長 わかりました。

畑岡委員、今のデータを精査しますか。事務レベルで、させますか。

〔「もう、いいと思いますよ」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 はい。村上委員。

○村上寿之委員 今せつかく、委員長が挙手で決めたのだから、それを尊重して、これか

ら進めていただきたいなという考えを、私はお願いしたいと思います。

○西山委員長 おっしゃるとおりです。

○村上寿之委員 よろしくお願ひします。

○西山委員長 じゃあ、いいですね。

赤字の数字についての根拠を示すべき作業はしない。

これでよろしいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 酒井委員。

○酒井正輝委員 多数意見ということでもいいと思うのですが、自治体に聞けばいいと、聞けばわかるのだということだと、自治体の答えというのは正しい判断でいいだろうということでのいのですか。

○西山委員長 暫時休憩します。

午前11時47分休憩

午前11時49分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

畑岡委員の意見。先ほどの意見というのは、差異がある、その差異を明確にするのには、すでに自治体で行っている費用、予算などの実行されているものを確認すればいいのじゃないかという意見ですか。

○畑岡洋二委員 はい。そういうことになろうかと思ひます。

先ほど私が言った資料14のことを見て、申し訳ないが私が熟読していなかったところを言ったと思うのですが、結局、取り上げて1個と比較はしているけれども、このぐらいの数字の情報としては、集めてきましたよというのが、この表でした。この表を見ると今言ったように、コンサルの説明の中の数字としてはださなかったけれども、ここにはバックデータとしてありました。

私たちがまた調べると、これがどこから出てきたの、やっぱりここからでてきたなということになるのだろと思うのですよ。ここを疑いだすときりがないので。さすがにそこは、数字として何か加工を加えてもらっていると思わないので、今の大関委員がだした数字が、よくありますよ。そういう意味では、結果として今、インターネットから調べた数字ですから、同じような話だと思ひのです。そこに、数字としての大きさの差があるのは、あたりまえ。それだけの話です。

だからこれ以上何かやろうとすると、何もないでしょうと思ひている。

〔「委員長、進めてください」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 自治体の話は理解しましたので。

まずは、赤字数字のことについて、収集したデータなのでしょうけど、これについて根拠

を調べて、予算化しなければなりません、根拠を調べて、今一度開示するという事は、現段階では必要ないということで、よろしいですね。

その確認です。よろしいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○大関委員 それはそれでいいと思うのですが、ここに示された数字はみんな共通した認識をもっていただきたいということだけお願いします。

それだけでいいです。

○西山委員長 確認しました。しませんねと。

ただ、これまで本日の会議の中ででた内容、ご意見の中で、数字の根拠としては互いに乏しいじゃないかということは、共有していかなければならないと。

数字が乏しい、根拠が乏しいということについて。

○大貫千尋委員 これは同じ扱いをされては困ります。コンサルタントは要するに1例をひっばってきてだしてきたのですよ。正式に答えていますよ。

この赤い数字については、事例4ないし5の行政が作ったやつの平均値ですから、その辺を一緒にはしないでください。

○西山委員長 じゃあ、加えます。コンサルタント会社が委託を受けて提出した書類は、1社を基準にだした数字である。一方で、赤数字については、数社、数自治体の結果に基づく平均値をだしたものである。そのうえで、根拠という部分では乏しいということでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 はい。ご理解ありがとうございます。

それから、次に、規模の縮小については、あり得るというご意見がでましたが、規模についてどうしましょう。

意見まとめておきますか。それによっては大きく変わることもあるので。

はい。安見委員どうぞ。

○安見貴志委員 規模の話なのですけれど、副委員長が縮小の話をしたときに、バイオ設備だけの縮小ということで理解したのです。縮小ということであれば、バイオも含めた全体の設備での縮小という意味じゃないと、私、全然違っちゃうと思うのです。

個人的な思いから質問しましたというベースに話をされてしまうと、この委員会で1度もバイオだけの縮小で話をしてませんから、おかしくなっちゃうと思うのです。

○西山委員長 バイオの話ではなくて、人口規模とか全体の話の中で出た意見が、縮小もありきだという空気だったのです。ただ、バイオについては、市長も検討の余地あるよという言い方。これは全体の話です。

これからバイオガス発電も併設した施設にすべきか、それとも、そうでない施設にすべきかという二者択一になるのでしょうか、この委員会の中で。あるいは、意見が大きく分か

れるかもしれませんが。でてくると思うんです。そうじゃなくて、全体の中では、縮小じゃないのですかと、この内容では。

大貫委員どうぞ。

○大貫千尋委員 今現在、バイオをやろうが何をしようが、全体の規模の適正が、どのくらいであるかっていう判断ぐらひは、当委員会でしたいですね。

○西山委員長 はい。わかりました。

そうしましたらば、次回の協議事項について、整理をしますので、事前にL o g oチャットで流して、みなさんに目をとおしてもらいます。加えて、みなさんの協議すべき事項は、こういうのが必要などということがあれば、事務局もしくは私に、あるいは副委員長の方に伝えていただいて、それを、表記したいと思います。

どうでしょうか。ここで言えないってこともあるかもしれませんが、それは出してもらったほうがいいのか、あるいは今回、この会議を経て、思いがあるかもしれませんので。それも、市民の代弁者であるみなさんに出していただきたいと思います。

内桶委員。

○内桶克之委員 規模については、去年の10月の第7回のときに、バイオで進めるときにバイオでと、可燃ごみの計算式が建設省に出されている計算式で明示されているのです。明示されている数字の根拠をどうなのかっていうところになってしまうのです。そうなっちゃうと、それを否定するわけでもないですけども、その考え方をみなさんが知ったうえで、規模を考えないと。

単純に縮小するとか、そういうことではなくて、計算に使ったこの数字の根拠が大事だと思っているのです。今までのごみの種類、5年後、令和10年度に推計して数字を取っているのですが、そこに至るまでの数字の根拠と計算式が、環境省の数字からきているということなので、それはみなさんも理解したうえでの縮小はどうなんだということと言わないと。ただ単純に、少なくなればいいということではないと思うのですよ。

そこは明確にしてください。

○西山委員長 申し訳ございません。

ここで確認します。規模拡大の人いますか。

いませんね。

縮小について根拠を示すべきだ。わかるべきだということですが、それを次回のテーマにしたいと思います。議論のテーマにしたいと思います。よろしいですか。

それを踏まえて、今後の進め方にすることと、あと1点だけ申し訳ございませんが、中間報告、前に石松委員から提案ありましたがけれども、第2回定例会に提案というか、指摘がありましたけれども、第2回定例会における中間報告をするべきか。しなくてもいいのじゃないか。

その辺のところ、結論だけ出したいと思います。このままでいくと、そんなに大きく

は変わらない報告だと思うのです。本会議ですべきだという・・・。

飯田委員。

○飯田正憲委員 この件は一つの区切りになるもので、きちんとやった方がいいと思います。

何のために、16回も17回もやってきたのか。

私はそう思います。

○西山委員長 はい。どうでしょうかみなさん。

報告すべきではない。する必要がないという方だけ。

ありませんね。それでは報告するというので進めていきます。

次回の開催なのですが、そのこともありますので、日程的に必要なので、次回の全員協議会でハラスメントの講習の後、3時ごろ終わるということなので、内容は絞っていきますので、大変でしょうけれども、その後、開催したいと思います。

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 石松委員どうぞ。

○石松俊雄委員 規模も含めて、多分、執行部は検討して基本設計に入っていると思いますけど、執行部側の資料みたいなものができてからの方がいいのじゃないですか。

この委員会だけで、何10トンの規模がいいとか判断するわけじゃないでしょうから、それからやった方がいいと思います。

〔「決まっちゃってからではダメだよ」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 はい。大貫委員どうぞ。マイクをどうぞ。記録に残しますから。

○大貫千尋委員 執行部が計画案をまとめた段階で、議会がどうこう言おうが、それはむずかしい話だから、あくまでも、調査特別委員会が常設で設置されているわけですから、調査特別委員会の要するに結果、結論をきちんと執行部にお示しをして、それで、こういう意見集約がこういう意見ですということ。

まるっきり、向こうで出来上がっちゃたやつとこっちが話したやつが違って、賛成だ反対だでは終わらせたくないのですよ。正直言って。

○西山委員長 どうでしょうか。

石松委員。

○石松俊雄委員 規模については、検討の余地があると市長も言っているのですから、私は一定程度、そういう検討も踏まえたものがでてくるだろうというふうに認識をしているので、執行部で一定のものが提起されてから委員会で議論するというのが、私はいいと思います。

○西山委員長 はい。一方で、大貫委員の意見というのは、議会の調査委員会の中での規模はこのぐらいじゃないか。もちろん、他市の前例を含めてなのでしょうけれども、そう

ということで、先にだすべきだろうと、だしたからどうだというわけじゃないけど、だすべきだろうと。議論しておくべきだろうということなのですが。公表するわけじゃありませんから。議論はいいですよ。

石松委員、議論はいいでしょうよね。議論はいいでしょうよ。議論は。

○石松俊雄委員 私はあくまでも、やっぱり一定程度執行部のものがでてからのほうが深まった議論はできますので、そっちの方がいいと思います。

○西山委員長 どうしましょう。みなさんのご意見は。

はい。大貫委員どうぞ。

○大貫千尋委員 現実には、今100トンで、要するにストーカー方式で一般焼却が65トン、バイオが35トンで100トンです。一生懸命調査特別委員会で、お話を進めている中で、副委員長が市長に、バイオの方の多少の縮小は考えられるのですかと言えば、それは考えられますよという答えがでてくるのですから、これ、二足歩行ですから、基本的に議会も一回出した結論に対して、要するに反対という形ではなくて、お互いが良いものを作っていくという中でですから、執行権の侵害じゃなくて、執行権に対してのアドバイスをすべきだと思います、議会は。それが二元性の基本であって、執行部が固めたものに対して、賛成だ、反対だ、こうしろ、ああしろ、そうしろという形だと、市長もなかなか立場的に話を変更するのはむずかしい状況になろうかと思っています。

石松委員の意見もわかりにくいことでもないけれども、やはり、勉強をする人しない人いますね、みなさんの中にね、私あんまり勉強しないのですよ。ですから、やっぱり勉強しながら、深い理解を議会の一人一人がして行って、良い形での提案ができればいいと思います。

○西山委員長 ただいま、意見が真っ二つに分かれたのですけれども、どうしましょう。

それによっては、委員会の柱の立て方が違ってしまうので。

石井委員どうぞ。

○石井栄委員 執行部は方針をだしてくるのでしょから、その前に、こういう疑問についてはどうなんだという質問事項を次回の全協の後、話し合う機会がもてれば、いくつかだされると思うので、それを踏まえて、執行部が執行部の方針をだしてくというのが一番いいパターンなのじゃないでしょうか。

議会の意見を聞いて、これはこういうふうなのですよ、という意見がだされてくれば、循環型の議論になって、もっと議論は深まるというふうに、理解も深まるのではないかと私は思います。いい機会ですので、いろいろな意見をぶつけて、執行部の方に検討してもらったうえで、一定の執行部の見解をだしてもらおうというのがいいのかなと、今、話聞いていて思いました。

以上です。

○西山委員長 分かりました。

それではですね。この件も含めて、正副委員長預かりでいいですか。

次回までに精査します。次回の委員会までに。

次回の委員会は先ほどお話したように、次回の全員協議会の後のハラスメントの講習の後、事件はそのことでいかがでしょうか。

○石松俊雄委員 私の意見は採用されないということですか。

○西山委員長 いやいや、違います、違います。

○石松俊雄委員 私は、執行部の一定の方向性が出てから、次の委員会を開いた方がいいんじゃないですかというのが私の意見なので。

○西山委員長 ごめんなさい。それは違います。

そうじゃなくて、委員会開催についての部分につきましては、先ほどのトン数、規模の話ではなくて、整理しますので。

今後の進め方も含めて第2回定例会における中間報告の内容についてもきちんとしなくちゃいけないので、時間的に、その日しかないんじゃないですか、ということで、お話ししたところなのです。タイミング的に。

○石松俊雄委員 執行部はでてこないのですか。

○西山委員長 執行部はでてきません。

○田村泰之委員 執行部のことも考慮して、中間報告重視。中間報告のことだけ。こういうふうな発表にしますという説明にだけして、石松委員が言うように、トン数とそういうものは、執行部にもう少し余裕を待たせて、執行部から出てきた数字を待った方が私はよろしいかと。

○西山委員長 そうじゃなくて、時系列的に無理なので、その日にはめたいのです。

それは、中間報告しますと決めたので、日程的にそういう日程になってしまうので、それは開きましよう。

その中に先ほどの規模縮小の件は、組み込んでいないので、それについては、預からせてください。

○田村泰之委員 執行部とうまく調整してください。

委員長と副委員長ににお任せします。

○西山委員長 それでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 ほかになければ。そのようにしたいと思います。

大貫委員どうぞ。

○大貫千尋委員 正副委員長から、市長の山口伸樹君にはっきり言っていただきたいのですが、私は、ある複数の議員から、市長が、大関委員と私は、どっかの業者に頼まれて反対しているのだというような発言があったっていうふうに聞いています。私も、そんなことを言われて黙っている人間ではありませんので、市長のいろいろなことを知ってま

す、過去30年にわたって。だから、言っといってください。私も、市長の批判的話は、個人的にはしていないのだから・・

○西山委員長 暫時休憩します。

午後零時11分休憩

午後零時12分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

以上で、本日予定していました案件は終了いたしました。

次回の開催は、5月21日、全員協議会、さらには、ハラスメントの講習会、その後、開催したいと思います。

よろしく願いいたします。

長時間にわたりご苦労様でした。

午後零時12分閉会